



## ごみ捨て場からごみ出し場へ

生活水準の向上、都市化の進展にともない、悩みのタネとなってきたのが、ごみ・し尿処理です。年々、都市生活から排出されるごみは、排出量の増大、質の多様化をもたらし、今日の大きな社会問題になっています。

し尿処理については公共下水道の100%整備をめざして重点的に事業をおし進め、健康で快適な市民生活を守るための整備と取り組んでいます。



リサイクルセンター

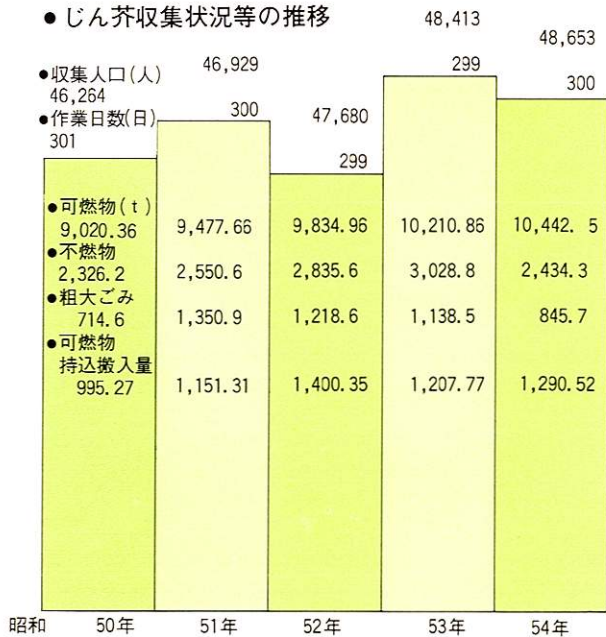
## ●ごみ減量作戦

快適な環境、クリーンなまちづくりは、まずごみの減量から始まりますが、最近では、生活様式の多様化によるプラスチック製品、耐久消費財の普及などとともに不燃物、焼却不適物のごみが増大しています。

そこで、市は燃えるごみと燃えないごみを分ける、いわゆる分別収集を徹底化し、燃えるごみは西多摩衛生組合で処理しています。それと同時に、ごみ減量の協力を市民に呼びかけ、ごみ問題の解消に努めています。

また、昭和54年には不燃物の中の再利用できる有価物を回収するために威力を発揮するリサイクルセンターが稼働し、増え続けるごみ減量対策に一役買っています。

### ●じん芥収集状況等の推移





### ● 清潔な都市をめざして

市のアンケート調査によれば、要望のトップは下水道の整備です。昭和53年6月から供用開始した公共下水道工事が、目下市内全域処理区域をめざして、急ピッチに進んでいます。55年3月現在、水洗トイレを含む排水設備設置世帯は、208ha・5,790世帯の処理区域のうち、2,930世帯が終わり、対処理区域内の水洗化率は50%に達しています。

それ以外の家庭のし尿処理は、現在業者委託によってバキュームカー6台を投入、1世帯当たり月1回の収集を行い、ごみ同様、西多摩衛生組合で処理しています。それも、近い将来、市内全域で水洗化できることになっています。



健康センター



休日診療

### ● 市民ぐるみの健康づくり

食生活の向上や都市化の進展によって、わたしたちの生活環境は急速に変化しています。それにともない、疾病の内容も多様化し、今、新しい対策が求められています。

そのひとつの現れが成人病で、最近では脳卒中、ガン、心臓疾患、高血圧症などが急増しています。そこで、市は胃ガン検診、子宮ガン検診などの予防対策、早期発見・早期治療に努める一方、予防接種や集団検診の強化充実をはかり、昭和53年オープンした健康センターを拠点に市民ぐるみの健康づくりを推進していきます。

休日における緊急診療については、福生市医師会休日診療所と市内の福生病院、目白第二病院、大聖病院を救急指定病院として、救急医療体制の充実に取り組んでいます。

コミュニティ